

学校改革！教職員の時間創造プロジェクト

ニュースレター

～働きやすい環境づくりのために～

2024年7月

Vo.2



ハモ

デジタル採点システムの活用について（長嶺中・出水中の実践）

今回は、「成績処理」に対する取組を紹介します。成績処理分析業務の中で、採点をはじめとする作業にかかる時間を短縮し、教員の負担を軽減するため、長嶺中学校と出水中学校では「デジタル採点システム」を導入しています。これまで手作業で行っていた回答用紙の採点作業を、パソコン画面に表示して行います。利用した先生方からは、「採点時間が半減した」という声も出ています。

また、採点後は自動でデータ分析が行われ、学年や学級及び個人の課題等が明らかになります。分析結果の活用により、自身の指導の振り返りやその後の指導改善にもつなげることができます。



【長嶺中学校での実践】

- ・令和元年度モデル導入
- ・導入当初は、小テストを中心に活用
- ・定期テストでも積極的に活用
- ・校内研修を実施し、利用者を拡大

長嶺中学校の猿渡校長は、令和元年度の導入当初より長嶺中学校で勤務（当時は教頭として）されており、『デジタル採点システム』の活用に深く携わってこられました。

先生方に積極的に使用してもらい、使用感等についての声を事業者に届けてきました。事業者側もシステム改善を進められ、年々使いやすくなっています。

システムを使用して採点作業を行っている先生方の様子を見ると、時間だけでなく気持ちにもゆとりが生まれたように感じます。



長嶺中学校 猿渡 功治 校長

システムを利用している先生方へインタビュー

今年度より出水中に赴任し、今回初めてシステムを使用します。採点前の設定作業にまだ慣れておらず、時間がかかりますが、採点を始めると何クラス分も同時にできるので早いです。

導入当初から使用しており、6年目になります。最初は、戸惑いもありましたが、使い続けているうちに明らかに効果を感じた瞬間がありました。

何事も、新しく始めるのには力がいらしますが、やってみることが大事だと思い、先生方にも勧めています。

長嶺中学校 川田 裕貴 教諭（情報担当）



出水中学校 遠藤 剛 教諭
（進路指導担当）



特に記述式の回答については、回答のみを並べて見ることで基準がブレることなく採点することができます。また、結果はすぐにデータ化されるので、集計や転記の作業がいらしません。修正があってもデータ上で簡単にできます。

出水中学校 高田 智史 教諭

